

## 約40年前に始まった米国留学の取り組み！

平成31（2019）年3月

八重山高校は、毎年3月に米国への短期留学を行っており、今年度も右写真のようにマサチューセッツ州のウエストポート高校へ10名の生徒と1名の職員を派遣した。この取り組みは歴史が長く、1980（昭和55）年3月に八重高生6名と引率教諭1名（田島信洋教諭）が米国に派遣されたのがスタートであり、この年は沖縄県から八重山高校と名護高校が参加することになったもので、県内ではこれまでに那覇高校が生徒を送り出しているが先島からは八重山高校が初めてで画期的なことである。八重山高校からの留学が決定したのは、同校英語科職員の2ヶ年にわたる取り組みが実ったものである。当時は、国際教育交換協議会主催の日米高等学校交流プログラムとして姉妹校関係を結んでの交流であった。当時の新聞記事を紹介する。



今年の3月の出発の様子

「八重山高校（平 永輝校長、在籍1067人）と、米国東部ニュージャージー州のニュートン・ハイスクール（在籍800人の男女共学校）が姉妹関係を結び、学生の交流をすることになった。このため3月11日から4月7日まで八重高から6名の生徒が米国に派遣される。こうした日米高校生の交流は、八重山では八重高が初めて。このプログラムは（社）日米協会など3団体の主催によるもので日米両国の高校が継続的な姉妹関係を結び、学校単位で生徒と教員を含む国際交流活動を行い、この活動を通してアメリカ文化と社会への理解を深めると同時に、英語による表現力と理解力を高め広くは日米両国民の相互理解と健全な国際社会の発展に役立てるのがねらい。姉妹関係を結んだ日米の学校はそれぞれの相手校へ生徒10～15人と引率教員を派遣。訪問国では4週間滞在、その間“民宿”の形をとりながら全期間を相手校へ通学するか、その一部を研修旅行に当てるかを選択できる。日本側からは3月に派遣、受入は6月となる。初の交流には6人（1年生4人、2年生2人）の派遣が決まったが、これらの生徒は出発まで英語会をはじめ、訪問先の事情についていろいろ事前学習する。参加費用は1人約40万円で自己負担」



当時の新聞に載った写真

帰国後、引率の田島信洋教諭は、「到着時のニュートンの町は雪でほとんどの生徒は雪が初体験でさらに住民やハイスクールの“熱烈歓迎”ぶりに感激の連続だった。ハイスクールでは当初言葉のハンディがあったもののそこはヤング同士、すぐに打ち解けた。また一行の来訪を同州の新聞「ニュージャージー・ヘラルド」紙が4回にわたり取り上げ相互理解に一役買った」と述べている。その後、1982（昭和57）年3月に7名の生徒がニュージャージー州のサミットハイスクールへ、1983（昭和58）年3月に6名の生徒がニュージャージー州のサミットハイスクールへ、1984（昭和59）年3月に7名の生徒がヴァージニア州のラストバーグハイスクールへ、1985（昭和60）年3月にオレゴン州のユージンハイスクールへ派遣された。

初めての受入は、1985（昭和60）年6月26日から7月16日で、オレゴン州のサウスユージンハイスクールとノースユージンハイスクールの生徒11名と引率教諭2名であった。その時以来、2010（平成22）年度までは毎年八重山高校とオレゴン州のサウスユージンハイスクールとの交換留学が行われたようである。



当時の新聞に載った写真

転機が訪れたのは2011（平成23）年度で、当時の八重山高校の渡久山修教頭によると「2008年に起こったリーマン・ショックの影響で、サウスユージンハイスクール側のホストファミリーが2011年度の受け入れが出来ないと連絡があり、やむなく派遣先を変更して八重高生の派遣のみ実施した」との事である。

それ以来、2012（平成24）年3月にトーマスジェファーソンハイスクールへ、2014（平成26）年3月にノースセントラルハイスクールへ、2015（平成27）年3月にウェストポートハイスクールへ、2016（平成28）年3月にノースセントラルハイスクールへ、2017（平成29）年～2019（平成31）年は3月にウェストポートハイスクールへ八重山高校生が短期留学という形で派遣している。

渡久山教頭が八重山高校に勤務している時までは、この留学に対する生徒の希望者も多く選抜に苦労したようであるが、近年は県が行う短期留学制度が充実し毎年10名近くの八重高生が海外に短期又は長期留学している。その影響もあってか希望者が渡航必要人数の10名に届かず、再々募集まで行っている現状がある。加えて、安心だと考えられていた海外の地域においてもテロがあり、今後この留学の在り方、又は実施について検討の必要があると考えている。